

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修4歳児・第2回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～4歳児の豊かな体験が広がる保育～

日時：令和7年7月7日（月）15：00～17：00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：帝京科学大学 非常勤講師 日色 智絵 氏



事例からの学び グループワークで子どもの姿と保育者の関わりを話しました



①園庭で水遊び



自分なりの試しができるモノがある。
（水・泥・ペットボトル・
ポンプ式ボトル・水鉄砲）

タライに泥が入り、その感触を楽しんだり、容器への出し入れを試したりしている子どもがいる一方で、水鉄砲を楽しんでいる子がいる。



タライに水を流したことで川ができた。砂の泥とは違う感触を味わいながら、泥の川の上を歩いたり、しゃがんで掴んだりして楽しんでいる。

タライで水遊びをしている
女児二人のやり取り

やめて！



ほんとうのハチがついてる

着ていたTシャツのイラストの「ハチ」を「本当のハチ」と言われたことがイヤだったようだ。



保育者の関わり

思いを受け止め、相手に伝えていく。
謝ることはなかったが、（謝らせることもしなかった）当事者の子どもも、気持ちを受容されたことで落ち着き、次の行動に向かうことができた。

②空箱積み

登園後、先に遊んでいる友達の様子を見ていた男児は、その後自分で遊びをみつけ、空箱の積み方を試行錯誤しながら楽しんでいます。

男児の姿に気付いた保育者が、試行錯誤に寄り添い、できたことを一緒に喜び合っています。男児は認めてもらえた安心感から、その後、自分から友達の輪の中に入っていくことができました。



すごい！
すごい！

できた～



④マットで遊ぶ（大根抜き）

水色のマットを海に見立てて泳いで遊んだり、緑のマット畑に見立てて大根抜き遊びを楽しんでいます。

抜けないよう、マットにしっかり捕まっている子、抜いてもらいたい子、友達が抜かれない様に助ける子、それぞれがいろいろな思いで遊んでいます。保育者も子どもたちのドキドキワクワクする思いを汲み取り、抜けるか抜けないかの駆け引きを楽しめるようにしています。

ぬけるかな
ぬけないかな



ぬけないように
がんばるぞ

③積み木の片付け

一緒に積み木で遊んでいた友達に、一緒に片付けようと自分の思いをしっかりと言葉で伝え、友達と一緒に片付けています。保育者が伝えなくても、自分で気付いたことを伝え、やり取りができる姿も見られています。

さいごまで
かたづけよう





講師より 保育の振り返り

環境が引き出す自然（水や泥）やモノとの豊かな関わり
イメージの実現のための材料や用具が身近にある



子どもの動き

- ・容器に泥を詰めようとする、容器を斜めにして水をためる動きを繰り返す、タライに手を入れて、泥水の中ですっと動かしているなど、子どもなりの様々な動きを引き出している。
- ・子どもたちが試したり繰り返し関わるなど興味、関心の対象になっている。
- ・同じ場で遊んでいた5歳児の遊び（中型箱積み木や製作）に魅力を感じ、4歳児も「自分もやってみたい」という気持ちになる。

保育者の動き

- ・それぞれの感触を味わう姿や試しなど、楽しみ方に寄り添う。子どものつぶやきや動きを丁寧に見取り、つぶやきを受け止めたり共有・共感している。同じ場においても異なる姿を踏まえた関わりをしている。
- ・5歳児の担任が4歳児が実現したいことを受け止め、作り方などの情報が得られるように援助すると共に、材料が自分で探せるように、自クラスの担任につなぐ関わりをしている。

「時間」「空間」「見守る人」がいる安心感
安全を配慮する言葉がけ

- ・表情と静かな声で表し共感している。
- ・遊びの中での危険性を具体的にさりげなく伝えている。自分たちで主体的に安全に配慮した遊びにつながり、友達同士伝え合う姿が生まれることが期待できる。
- ・子どもの思いをゆったり聴いて、気持ちを受け止め、相手に知らせる橋渡しを丁寧に行っている。



重要!



- ・保育では、想定外の出来事や名もない遊びが生まれることが多々ある。その偶然性の中に、子どもたちは面白さや新たな気づきや発見をしている。ここを見逃さないことが大事である。
- ・イメージが豊かになってきて「自分で」という思いがあふれてくる。身近に材料等がない時に「ほしい」と言える子もいるが、あきらめてしまう子もいる。身近に、実態に添った材料や用具などの環境があることが重要である。
- ・一人一人が楽しんだり試したりしていることが見取れないと、タイミングがずれてしまう。遊びを止める、遊びに没頭できない可能性もある。
- ・遊び込むためには、時間と場の保障が欠かせない。幼児自らが主体的に繰り広げる姿に温かい心を寄せながら成長の様子を捉えることが「見守る」援助のあり方である。
- ・自己主張し、友達とぶつかり合うなど葛藤体験が多くあるのも4歳児。ここを丁寧に関わるのがポイント。それにより、自分たちでトラブルを解決する姿につながるので、解決を急がない援助をしましょう。

研修生の
報告書より

子どもたちの一人ひとりの感じ方や表現の仕方は異なり、それを丁寧に受け止める保育者の姿勢がとても重要であることに改めて気付いた。同じ環境や素材でも子どもによって遊び方や試し方が違うこと、その違いに育ちがあることを映像から学んだ。また、子どものつぶやきを受け止めたり、試す姿を温かく見守ったりすることで、安心して挑戦できる環境が生まれることも再認識した。これまで関わりの中で見逃してしまっていた小さな気づきや思いを、もっと丁寧に受け止めていく必要があると感じ、保育者としての関わり方を見直すきっかけになった。

同じ場においても、思いや願いが違う、
それぞれがかなう場に再構成

子どもの動き

タライの水を流したことで川ができた。砂場の泥とは違う感触を味わう場ができた。

- ➡ 偶然の出来事から生まれた子どもの動き
足で味わう・・・ゆっくり歩く、走る、足先で触る、
踵でたたくようにする
手で味わう・・・拳、指先、指、で触る、手で掘る
両手でぐるぐる、匂いを嗅ぐ、
温かさを感じる

保育者の動き

- ・子どもと同じ動きをしたりつぶやきを受け止めている。
- ・自分の行動を言語化しているため、子どもも安心し、期待感をもて、自分から準備する動きも生まれる。
- ・偶然の出来事から生まれた現象の子ども動きを丁寧に受け止めている。

友達との関わりを生む場が作れる物がある

使いたいものを使いたい場に持っていき、自分たちのイメージに合った場に作れるモノがある。
自由な見立てが可能である。

園の日頃のチームワークがみえる

一人一人の子どもの成長が園内で共有されている。その時その時、どのように保育者が関わっていくことが大切か日頃から語り合い積み重ねていることが窺える。



保育者が子どもの主体性を大切にすることの重要性を改めて感じ、4歳児は「自分でやってみよう」という気持ちが強くなり、その思いを尊重することで自己肯定感や意欲につながることを学んだ。先回りせず見守りながら、子どもが自分で考え、選び、行動できるような環境を整えることが大切であると実感した。子どもが自分の考えや気持ちを安心して表現できるような関わりを心がけ、一人ひとりの「やってみよう」という気持ちを尊重する保育を実践していきたいと思う。